

中国におけるモンゴル人の高等教育 —内モンゴル自治区の大学募集枠から見る—

道日娜

中国蒙语授课生(蒙授生)の高等教育問題 —基于内蒙古自治区的高校招生计划—

道日娜

論文要旨

随着中国高等教育的大众化,越来越多的人可以接受高等教育。然而沿海发达地区和农村依然存在着高等教育机遇的不平等。通过高等教育的大众化以及优惠政策的实施,提高了少数民族的大学升学率,但是实际状况并不乐观。在内蒙古有一半左右的蒙古民族为以后的升学和就业做打算而放弃了上蒙古族学校,从而精通本民族语言的人越来越少。本论文通过分析全国高校对内蒙古的招生计划,研究蒙语授课生高等教育的问题所在。主要做了以下几点考察。

一、区外院校招收蒙授生的数量以及招生院校的排名和所在地。如北京高等院校的招生数量、全国985高校的招生数量等。二、招收蒙授生的区外高等院校在招生专业分配上存在哪些问题。三、分析区内院校对蒙授生的招生及专业分配情况。通过以上的分析希望可以找出蒙语授课生的高等教育的潜在问题。从而改善蒙语授课生单一的人才培养模式、同时对民族文化遗产有积极的影响。

目次

はじめに

1. 中国における少数民族の高等教育

1.1. 民族学院と普通高等教育機関

1.2. モンゴル人の高等教育と大学入試

1.3. 募集制度における優遇政策:少数民族学生への配慮

2. 内モンゴルにおける人材養成の実態—大学募集枠

及び学科から見る

2.1. モンゴル人学生の自治区外の進学先と

「985 プロジェクト」

2.2. 学科から見るモンゴル人学生の進学動向

2.3. 内モンゴル大学における進学動向と民族予科

3. 考察

おわりに



はじめに

中国は「改革開放」(1978年)後、経済発展のため高等教育が重視され、高度な人材養成に力を入れ始めた。特に1999年に国務院が「21世紀を目指す教育振興行動計画」を打ち出して以来、高等教育の大衆化が進み、2010年において、高等教育への進学率は26.5%となっている¹。進学機会が大きく拡大されたにもかかわらず、就職難により、依然として重点大学への進学は競争が激しい。杉村(2008)は中国において、経済発展の先進地域や都市部に有利な状況が生じ、大学進学率が高いなど、高等教育機会をめぐる不平等を指摘している²。

少数民族の場合、大学入試における優遇政策の実施によって高等教育機関への入学が保証されてきたことは言うまでもない。しかしながら進学できる大学や学科が限られている。内モンゴル自治区(以下は内モンゴルと略す)では、就職や大学への進学を念頭において、子どもを民族学校に行かせず、普通学校に行かせるケースが増えつつある(ハス額爾敦、2005; ソロンガ、2006; 高、友哈、2010; ムンクバト N.B.2012)。2009年モンゴル語で授業を受けている学生数は初等教育から高等教育までの学校に在籍しているモンゴル人学生数の50.55%しかないとのデータも挙げられている³。

新保(2012)は民族学校のモンゴル人学生は希望を持つことができない、「三無主義」⁴や「マイホーム主義」⁵が広く浸透していると指摘している⁶。「実際、高等教育段階ではモンゴル語で開講されている科目は限られており、特に自然科学分野ではほとんどない」⁷。このように、内モンゴルにおけるモンゴル民族学校卒業生の高等教育は楽観視できない。

そこで本研究では、高校までモンゴル語で教育を受けたモンゴル人学生はどの高等教育機関に進学しているか、またどのような学科で学習しているか、モンゴル語で教育を受けた学生と漢語で教育を受けた学生は大学進学においてどのような差異が生じているのか、を考察し、モンゴル人の高等教育の課題を明らかにす

る。その際、内モンゴルの受験生向けの高等教育機関の募集枠や学科に焦点を当てる。モンゴル語で教育を受けた学生の高等教育の課題を検討することによって、中国における他の少数民族の高等教育の課題にも示唆を与えることができると考える。

90年代までに中国の少数民族に関する研究は主に少数民族の歴史・社会・文化に関するものが多く、民族教育に関する研究は少なかった。しかし、ここ20年間に於いて、少数民族教育に関する研究は民族ごとに進んできている。ウイグル族、チベット族、モンゴル人、回族、イ族、朝鮮族が挙げられる。以下では主にモンゴル民族教育について、その傾向を検討する。

岡本(1999)は、少数民族言語政策である二言語教育の現状を民族ごとに詳細に記述した。さらに、ハス額爾敦(2005)は、少数民族の学生数は増えているが、民族語で教育を受けられる学生数は減りつつあることを述べ、民族教育政策と実態の間に落差があることを指摘している。90年代末に、民族小学校における英語教育の必修化に伴って、三言語教育やトライリンガル教育が議論されるようになった。高、友哈(2008; 2010; 2011)は、内モンゴルの民族学校における三言語教育の現状及び課題を広い範囲で分析し、英語教育の実施により、モンゴル民族の母語教育に影響を及ぼしていることを考察している。ボルジギン・ムンクバト(2014; 2015)は、グローバル化及び「漢化」に伴い、モンゴル語を使用する範囲が狭くなりつつある状況で、民族学校におけるモンゴル語教育は民族文化の発展と存続の鍵となると述べている。しかしながら、民族学校におけるモンゴル語教育は普通学校及び東アジアの諸学校の民族語教育の割合より低いことや学年が上がるにつれて割合が減少することを指摘している。さらに、ハスゲレル(2016)は、三言語教育の実施により、モンゴル民族をモンゴル語の衰退が起こり、モンゴル語の教育現場を困惑させていることさえ指摘している。これらは、モンゴル民族教育の背景及び課題を理解する上で、重要な情報を提供している。ただし、上記の諸研究はモンゴル人学生の高等教育について触れていない。

モンゴル民族学校のアイデンティティの育成について、ハスゲレル（2005）は、モンゴル語と歴史の教科書を分析し、自民族の文化史・民族史の取り扱いが不十分であることを論じている。鳥力更（2013）は、学校統廃合⁸により実施された寄宿制民族学校教育は民族としてのアイデンティティの形成を阻害し、「自己不全感に陥った若者を作り出している」と指摘している。

新保（2012）は市場経済の下での公教育の普及によって、民族学校及びモンゴル人学生にいかなる影響を及ぼしているかを分析している。モンゴル人学生は小学校の段階から三つの言語を学習するため、語学学習の負担が大きく、いくら努力しても漢人学生と学力格差があり、結果的に学習意欲が低下し、希望を持つことはできないと述べている。この研究はモンゴル人学生と漢人学生の将来希望する職業の差異を明確にしているが、高等教育機関における進路選択からその原因を探っておらず、再検討する必要がある。

少数民族の高等教育に関しては、小川（2001）は、国際化に伴う英語教育の強化によって、朝鮮族の進学率を低下させることや初等教育・中等教育の拡大により、イ族の高等教育の拡大及び質的向上を図れることを考察している。大学入試や進学データの分析を通じて少数民族の高等教育の課題を検討した点は、モンゴル人の高等教育を研究する上で大切な知見や方法を提示している。

上述したように、モンゴル人の民族教育において、少数民族言語政策のバイリンガル教育やトライリンガル教育及び民族アイデンティティ育成の観点から数多く研究された。しかしながら、内モンゴルの高校までモンゴル語で教育を受けたモンゴル人学生の高等教育の課題は必ずしも十分に検討されてこなかったと考えられる。

本稿では、まず、内モンゴル自治区教育募集・試験センターから刊行された『内モンゴルにおける高等教育機関の募集要項』（原語：『内蒙古教育招生考试2010年招生计划』）をもとにモンゴル人学生の進学動向を分析し、人材養成の実態に迫る。次に、内モンゴ

ル大学での現地調査で得られた資料を加えて、分析を行う。

1. 中国における少数民族の高等教育

1.1. 民族学院と普通高等教育機関

少数民族の高等教育について、『教育大辞典』（上海教育出版社、1992年）では少数民族を対象に行う高等教育を指し、民族地区のために専門的な人材を養成することと説明している。また、少数民族高等教育を行う機関は主に2種類に分けられている。一つは少数民族地区に設置された普通高等教育機関、もう一つは少数民族のために設置された民族学院と一部の普通高等教育機関に設置される民族クラスがある。中国において、少数民族の高等教育は主に民族学院（大学）と普通高等教育機関の民族クラスによって行なわれている。

1) 民族学院

中華人民共和国を建国した当時、少数民族地区を治めるために、大量の少数民族人材を養成することが課題だった。そこで1951年から1958年の間に10の民族学院（大学）が設立され、文化大革命後の80年代にも2校、90年代に1校が設立され、計13校になった⁹。現在全国において15校がある。これらの学校は中央民族大学、西北民族大学、西南民族大学、中南民族大学、广西民族大学、雲南民族大学、貴州民族学院、四川民族学院、青海民族大学、チベット民族学院、北方民族大学、湖北民族学院、大連民族大学内蒙古民族大学、フフホト民族学院である¹⁰。現在はほとんどの「民族学院」は「民族大学」に名称変更した。1993年に中央民族学院が中央民族大学へ名称変更したが、その意義について、学校の規模の拡大、質の向上と「昇格」とされている¹¹。また所在地が北京である中央民族大学は全国各地から少数民族を募集するが、地方の民族大学は主に地方の学生を募集する¹²。

2) 普通高等教育機関

1980年に教育部が「全日制重点大学が少数民族クラスを試みることにする通知」¹³⁾を打ち出し、その任務について次のように述べている。

「少数民族の人材を有効的に養成するため、1980年から計画的かつ、重点的に全国の重点高等教育機関に民族クラス、民族予科クラスを設置し、今後は必要に応じて拡大する。関係する各高等教育機関及び省、自治区は大いに支援することを望む」(筆者訳)。

このように、普通高等教育機関では民族クラス、民族予科クラスを設置することによって、高等教育機関で学んでいる少数民族の割合を向上させ、さらに、少数民族の学生が重点大学で学習できるようになったことが評価されている。区域自治法においても、上記の内容が規定されている。このように、高等教育機関において、少数民族に配慮し、優遇政策を実施している。しかしながら、1950年代、民族学院における少数民族の学生は90%だったがその割合が徐々に下がり、2004年では61.4%となった¹⁴⁾。

表1から分かるように、高等教育機関で学んでいる少数民族の割合は徐々に低下しつつあった。2010年ではその割合は6.76%となったとはいえ、依然として全人口における少数民族の割合8.49%を下回っているのである¹⁵⁾。

1.2. モンゴル人の高等教育と大学入試

本節では、少数民族の高等教育の課題を踏まえ、内モンゴルのモンゴル人学生の高等教育の課題を検討する。

1) モンゴル人学生の教授言語による分類

内モンゴルでは46の高等教育機関があり、その多くは自治政府の所在地であるフフホト市に設置されている¹⁶⁾。特に、本科の大学はほとんどフフホトにある。内モンゴル大学、内モンゴル師範大学、内モンゴル農業大学、内モンゴル医科大学、内モンゴル工業大学などがトップに位置する。2008年では内モンゴルの高等教育機関で学んでいる少数民族の割合は30.98%となり、自治区の少数民族人口の割合20%未満を大きく上回っている¹⁷⁾。モンゴル人の高等教育は発展しているように見えるが、高校までモンゴル語で教育を受けたモンゴル人学生の進路選択は限られている。そのため、進学や就職を念頭に、モンゴル人の中でも民族学校に行かず、普通学校に行くケースが増えつつある。表2では、2003年から2010年までの高校までモンゴル語で教育を受け、卒業した学生の割合を示したものである。実際に、高校までモンゴル語で教育を受けたモンゴル人学生「蒙授生」は40%未満である。残りの約60%は漢語で教育を受けていることが分かる。

表1 全国の高等教育機関で学習している少数民族の割合(%)

年	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003
割合	6.4	6.4	6.5	6.5	6.8	6.6	6.0	5.8	5.7	5.8	5.9

(国家民委教育科技司『中国民族教育文件匯編 上冊』2008年、213頁により筆者が作成)

表2 2003年－2010年におけるモンゴル民族高校卒業生の割合

年	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
モンゴル人学生	24,438	28,480	34,772	39,542	39,625	43,789	42,715	41,517
蒙授生	8,415	9,888	12,126	14,015	12,895	15,731	16,479	14,081
加授モンゴル語	587	1,370	609	459	546	479	393	763
蒙授生の占有率(%)	34.22	34.71	34.87	35.44	32.54	35.92	38.57	33.91

(内蒙古自治区教育厅民族教育处(2011: 421-428)により筆者が作成)

ここでいう、「蒙授生」とは高校までモンゴル語で教育を受け、漢語を一科目として学習するモンゴル人学生を指し、モンゴル民族高校出身の学生である。「加授モンゴル語」とは漢語で教育を受け、モンゴル語を一科目として学習する学生のことを指し、表2からも分かるように、内モンゴルには極少数のモンゴル人学生は「加授モンゴル語」の教育形態をとっている。

上述した以外のモンゴル人学生はモンゴル語を学習せず、漢人学生と同じく漢語で教育を受ける「漢授生」となる。そのため、内モンゴルのモンゴル人学生の場合、教授言語により、民族学校に通う「蒙授生」と普通学校に通う「漢授生」（「加授モンゴル語」を含む）と大きく二種類に分かれている。

このような状況を踏まえ、本稿では、高校までモンゴル語で教育を受けたモンゴル人学生「蒙授生」の高等教育の課題を検討する。ここで言う「モンゴル人」とは「蒙授生」を指す。漢語で教育を受けた学生「漢授生」には、漢語で教育を受けたモンゴル人学生も含む。なるべく分けて説明する。

2) 大学入試における科目と配点

中国の大学入試（原語：高考）は毎年6月7日、8日に行われる。教育課程の多様化により、2000年以降、試験実施日及び選抜のプロセスなど基本的な枠組みは同じであるが、省によって、試験内容と科目が異なっている¹⁸。内モンゴルの場合、モンゴル人学生は、漢人の学生より一科目（モンゴル語）多く学習しているため、6月9日の午前中まで試験を受ける。そして

大学入試における科目と配点も違う。漢語と英語以外はモンゴル語で試験を受けられる。表3では、内モンゴルの受験生の大学入試科目と配点を整理した。

2007年の内モンゴル教育庁の「内モンゴルにおけるモンゴル語で教育を受けた学生とモンゴル語を一科目として学習した学生及び朝鮮語で教育を受けた学生の大学入試の科目と配点方法」¹⁹（原語：内蒙古自治区蒙古語授課（加授蒙古語文）和朝鮮語授課考生高考科目及記分办法）では、入試科目と配点方法を以下のように規定し、2008年から実施するとされている。

「蒙授生」はモンゴル語（甲）、数学、英語、漢語、文系総合/理系総合²⁰の5科目を受験する。「漢授生」の場合、モンゴル語以外の4科目を受験する。総得点は同じであるが、モンゴル人学生の場合、漢語の得点の50%と英語の得点の50%をあわせて「漢授生」の「外国語」に相当する。その配点及び計算方法は表3にまとめた。筆者は2005年に大学入試を受けたが、当時は英語の得点の10%が総得点に加算されたが2018年に英語の得点の30%が加算された。このように、大学入試の総得点における英語の得点が徐々に増加している。この「配点方法」において、「蒙授生」の場合、漢語と英語は50%ずつと規定しているが、実際にモンゴル人学生の大学入試の総得点における英語の割合はまだ50%となっていない、これは、英語が不得意なモンゴル人学生にとって、総得点が下がることへの懸念だと考えられる。また、この規定の実施によって、モンゴル民族学校の受験対策も変わると思われる。大学入試に高得点を取るために英語教育を重視する分、

表3 大学入試（高考）試験科目と配点

	理系総合/文系総合	数学	語文	外国語	総得点
「漢授生」	300	150	漢語 150	英語 150	750
「蒙授生」	300	150	モンゴル語(甲) 150	漢語 (150点) 50% 英語 (150点) 50%	750
「加授モンゴル語」	300	150	漢語 150	モンゴル語 (乙) (150点) 50% 英語 (150点) 50%	750

（内蒙古自治区教育庁民族教育処（2011：259-260）により筆者が作成）

ほかの科目に使う時間を減らさなければならない。「加授モンゴル語」の場合、数学、英語、漢語、文系総合/理系総合とモンゴル語(乙)を受験し、モンゴル語(乙)と英語が50%ずつで加算される。ここで言うモンゴル語(甲)とは内モンゴルの牧畜地域の民族学校で使われている教材をさし、モンゴル語(乙)は、都市部出身のモンゴル語を使えなくなったモンゴル人学生向けの教材で、内容もレベルが低くなっている²¹。

1.3. 募集制度における優遇政策：少数民族学生への配慮

中国の大学募集制度は戸籍制度を土台に作られているため、教育部や中央省庁に所属する国立大学は全国範囲で学生を募集するが、大学が立地する省に、より多く定員を割り当てられる²²。そのため、北京や上海の受験者のほうが、重点大学に進学できるチャンスに圧倒的に恵まれている。同じ大学や学科でも省によって合格ラインが異なり、受験生は同じ省の学生と競争することになる。

少数民族学生の場合、漢人学生との学力格差の存在が前提として大学入試において加点措置が取られている。そして、少数民族といっても、教育状況や教育レベルが異なるため、大学入試における加点の幅も異なる。

『2005年普通高等教育機関の募集要項に関する教育部の通知』の44条²³において、少数民族の大学入試の加点措置をこのように規定している。

「少数民族の集中居住地区や辺境に居住する少数民族の学生に大いに加点すべき、遼寧省は10点、内モンゴル10点、吉林省5点、チベット20点、甘肅20点、四川50点、新疆50点」(筆者訳)。

この規定から大学入試における加点措置は居住する地区や民族によって加点の幅が違ってくる。しかしながら、このような加点措置は大学入試に獲得した得点に加点するものであり、少数民族学生の合格を保証するものではない、加点措置よりも少数民族学生の合格を確実にものにしているのは、少数民族への特

定枠である²⁴。つまり、少数民族学生のために単独の合格ラインを設け、民族大学や民族クラス、民族予科クラスによって、高等教育機関への進学を保証している。

内モンゴルの場合、高校までの教授言語により、「蒙授生」と「漢授生」(「加授モンゴル語」も含む)と分けられているため、募集枠もそれぞれ違う。「蒙授生」の場合、単独の合格ラインが設けられている分、モンゴル語で教授している大学や学科にしか進学できない。競争相手もモンゴル民族学校の学生同士になる。「漢授生」は漢語で教授している多くの大学や学科に進学できる。また漢語で教育を受けたモンゴル人学生と「加授モンゴル語」の学生は漢語で教授する多くの大学や学科に進学できる。競争相手は漢人学生であるが、少数民族のため、大学入試の総得点に10点プラスされる。ただし、「加授モンゴル語」の学生はモンゴル語の試験も科せられているため、大学入試の総得点に高得点を獲得し、漢人学生と競争することは簡単ではないと推測される。そのため、内モンゴルのモンゴル人学生は選択肢が限られても、大学進学をある程度保証してくれる民族学校に入学するか、総得点に加点され、より漢語や英語の学習ができ、選択肢が広い普通学校に入学するかの大きく二種類に分かれている。

前述の加点措置の規定で注目すべきところは、中国の加点措置は、戸籍上に「少数民族」であれば、誰でも加点されるようになっている。普通学校の学生か、民族学校の学生か、自民族の言葉を学んだかは関係ないのである。そのため、普通学校の漢人学生は「民族」を「少数民族」に変更し、加点政策を悪用する者も少なくない。

もちろん、このような優遇政策に対して、主体民族である漢人への逆差別であるという指摘もある。確かに、自民族語も学習せず、大学入試でも自民族語の試験を受けないのに、10点も加点されることは、同じ教室で学習している漢人学生には不公平である。台湾の場合、少数民族の母語への配慮として、母語の検定に合格したものは大学入試の総得点に35%加算され

るようになっている²⁵。

したがって、少数民族の優遇政策は、自民族の言葉・文化を学習している少数民族に配慮して行われるべきである。

2. 内モンゴルにおける人材養成の実態 —大学募集枠及び学科から見る

前章では、モンゴル人学生の大学入試及び募集制度における優遇政策を述べてきたが、ここでは、モンゴル人学生は実際にどの大学や学科に進学しているかを検討する。その際に内モンゴルの受験生向けの『内モンゴルにおける高等教育機関の募集要項』（原語：『内蒙古教育招生考试』）をもとに分析を行う。

中国の大学入試の選抜は省ごとに行われている。各大学は各学科の募集定員を省ごとに割り当てている。また、大学の募集枠は年度ごとに変わる。場合によって、ある大学は、去年内モンゴルから学生を募集したが、今年は募集しないということもあり得る。内モンゴルでは大学受験生のため、毎年5月に内モンゴル自治区教育募集・試験センターから募集要項（原語：『内蒙古教育招生考试』）の本が発行される。受験生はこの本を見て、親や先生に相談しながら志望校と学科を記入し、提出する。この募集要項には内モンゴルの受験生を募集する全国の高等教育機関及びその学科や人数が詳しく書かれてある。重点大学、一般大学、専科学校の順に文系理系別に書いてある。そしてさらに、高校までモンゴル語で教育を受けた「蒙授生」を募集する「学校・学科」と漢語で教育を受けた「漢授生」を募集する「学校・学科」と分けて記されている。というのは、内モンゴルでは、モンゴル語で教育を受けた学生に対して、単独の合格ラインを設けているからだ。2010年の内モンゴルの募集要項は772頁にも渡るが、そのうち「蒙授生」向けの募集要項は13頁のみである。

2.1. モンゴル人学生の自治区外の進学先と「985プロジェクト」

本節では、モンゴル人学生の自治区外の進学先及び学科を考察する。ここで使う「区内大学」とは内モンゴル自治区にある高等教育機関をさす。「区外大学」とは、内モンゴル自治区以外の省や市にある高等教育機関をさす。ここでは、本科の高等教育機関だけを扱うことにする。また、本科の高等教育機関の場合、学校運営の質、整備、沿革により、学生募集にあたって、合格ラインの高い順より本科第一批、本科第二批、本科第三批と分けている²⁶。本稿では分かりやすくするために、第1類教育機関、第2類教育機関、第3類教育機関と表記する。学校ランキングのようなものである。例えば、2010年の内モンゴルの募集要項（原語：『内蒙古教育招生考试 2010年招生计划』）によると、第1類の教育機関の学校は中央民族大学、北京林業大学、上海財経大学、瀋陽農薬大学、内モンゴル大学などであり、第2類の教育機関の学校は西北民族大学、黒竜江大学、大連民族大学などが含まれる。第3類の教育機関の学校は黄河科技学院、西南大学育才学院、内モンゴル大学創業学院、内モンゴル師範大学鴻徳学院などがある。

また、モンゴル語で教育を受けた学生を「蒙授生」文系（原語：蒙授文科）、「蒙授生」理系（原語：蒙授理科）と表記する。漢語で教育を受けた学生を「漢授生」文系（原語：普通文科）、「漢授生」理系（原語：普通理科）と表記する。

表4表5表6は内モンゴルの受験生向けの2008年－2010年の募集校の数を整理したものである。ここから、内モンゴルにおける漢語で教育を受けた学生とモンゴル語で教育を受けた学生を募集する高等教育機関数における差異が分かる。

内モンゴルの「区内大学」の場合、「蒙授生」と「漢授生」を募集する学校の数はほとんど変わらないが、「区外大学」においては、募集する学校の数が違う。第3類の高等教育機関はモンゴル人学生をほとんど募集していない。これらの学校のほとんどが独立学院で

表4 2008 年内モンゴル自治区の学校募集枠

募集枠 類 別	第1 類教育機関		第2 類教育機関		第3 類教育機関	
	区内大学	区外大学	区内大学	区外大学	区内大学	区外大学
蒙授生 文系	5	9	4	15	0	0
蒙授生 理系	5	14	8	18	0	0
漢授生 文系	4	139	10	273	10	154
漢授生 理系	6	194	10	340	6	170

表5 2009 年内モンゴル自治区の学校募集枠

募集枠 類 別	第1 類教育機関		第2 類教育機関		第3 類教育機関	
	区内大学	区外大学	区内大学	区外大学	区内大学	区外大学
蒙授生 文系	6	12	9	15	0	0
蒙授生 理系	7	18	10	18	0	0
漢授生 文系	6	140	13	277	9	185
漢授生 理系	6	204	11	338	10	203

表6 2010 年内モンゴル自治区の学校募集枠

募集枠 類 別	第1 類教育機関		第2 類教育機関		第3 類教育機関	
	区内大学	区外大学	区内大学	区外大学	区内大学	区外大学
蒙授生 文系	6	11	8	15	0	1
蒙授生 理系	7	18	10	19	0	1
漢授生 文系	5	145	10	298	10	198
漢授生 理系	6	186	13	343	7	206

(表4、表5、表6は『内蒙古教育招生考試 2010 年招生計画』により筆者が作成)

ある。独立学院は「二級学院」とも言われ、既存の国立大学のリソースを使用して作られた分校であり、所在省内の高校卒業生の大学進学を満たし、高等教育の拡大を可能にしたと言われている²⁷。2013 年では全国において 292 校の独立学院²⁸がある。内モンゴルでは内モンゴル大学創業学院と内モンゴル師範大学鴻徳学院の 2 校がある。この 2 校はモンゴル人学生を募集しない。

2008 年、「区外大学」の第1 類教育機関は「蒙授生」に対して文系 9 校が募集し、理系は 14 校が募集した。「漢授生」に対しては、文系 139 校、理系は 194 校が募集した。第2 類の高等教育機関は「蒙授生」に対して文系 15 校、理系 18 校しか募集していないが「漢授生」に対して文系 273 校、理系 340 校が募集した。2009 年、2010 年も同じ傾向にある。

第3 類の高等教育機関の場合、「区内大学」も「区外大学」もほとんどモンゴル人学生を募集していな

いことが分かる。このように、内モンゴルの場合、「蒙授生」と「漢授生」を募集する「区内大学」の数は変わらないが、「区外大学」において差異があることが確認できた。続いては、実際に「蒙授生」と「漢授生」は自治区外のどの高等教育機関に進学しているかを学校のランキングから考察する。

表7は「蒙授生」が進学する自治区外の高等教育機関及びその学校のランキング、所在地を整理したものである。中国は本科の高等教育機関を「985 プロジェクト」(原語:「985 工程」)「211 プロジェクト」(原語:「211 工程」)と認定している。1995 年に 21 世紀に向けて、中国の 100 の大学を重点的に投資していく「211 プロジェクト」を発足させ、1998 年にさらに世界一流大学の育成を目指して「985 プロジェクト」を始動し、現在延べ 39 校が指定されている²⁹。「985 プロジェクト」の認定校はほぼ教育部所属の学校であり、北京の清華大学、北京大学、中国人民大学、北京師範大学、

表7 「蒙授生」の自治区外の進学先及び進学者数（第1類の教育機関、文系）

	2007	2008	2009	2010	所属、所在地
中央民族大学 「985」	24	26	23	22	国家民委、北京市
中南民族大学	0(1)		1		国家民委、湖北省武汉市
瀋陽工業大学 ★	6	6	4(6)	6	遼寧省、遼寧省瀋陽市
長春理工大学 ★	6	6	6	6	吉林省、長春市
上海外国語大学	5		8	5	教育部、上海市
湖南大学 「985」				1	教育部、湖南省長沙市
中山大学 「985」	0(1)				教育部、広東省広州市
蘭州大学 ★ 「985」	2		2	2	教育部、甘肅省蘭州市
山東大学 「985」	2				教育部、山東省済南市
南開大学 「985」	1(2)				教育部、天津市
同済大学 「985」	2				教育部、上海市
河北工業大学 ★	4	2	6	4	河北省、天津市
遼寧大学 ★	26	25	22	19	遼寧省、瀋陽市
遼寧工業大学 ★	2	2	12		遼寧省、錦州市
黒龍江大学 ★	2	2	2	2	黒龍江省、ハルビン市
新疆大学 ★	3(4)	4	4	4	新疆、ウルムチ市
西北民族大学		26(75)	7(60)		国家民委、蘭州市
西南民族大学			1	1	国家民委、四川省
計	85	99	97	72	

（※国家民委は国家民族事務委員会の略称、() の数字は募集枠、実際の進学者数ではない。空白の部分はその年募集枠が無い。
『内蒙古教育招生考試 2010 年招生計画』により筆者が作成）

北京理工大学、北京航空航天大学、中国農業大学、中央民族大学の8校で、上海の復旦大学、同済大学、上海交通大学、華東師範大学の4校、残りの27校はいくつの市や省に所属している。「985 プロジェクト」に認定された学校は「211 プロジェクト」の大学から精選したため、同時に「211」大学でもある。民族大学の場合、中央民族大学を除けば、「211」「985」に認定された民族大学や民族学院がないことは、高等教育機関における民族大学のレベルを示している。

「211」「985」の大学には、「蒙授生」のほんの少しのエリートしか入学できない。進学先のランキングから見てみよう。「985」の大学から見ると、中央民族大学は中国で一番最初に作られた民族大学であり、北京市に位置し、「985」「211」にも認定されている。モンゴル人学生に対して、ほぼ毎年募集を行い、募集人数もほかの大学より多いことが分かる。2008年から2010年にかけて毎年23名位募集している。この意味では民族大学の役割を果たしていると言える。つまり

少数民族の人材を養成できている。しかしながら、募集枠における学科の配分は必ずしも十分ではない。後で詳しい分析を行う。

同じく「985」の湖南大学は2010年に1名しか募集していない。中山大学の場合、2007年に1名の募集枠を設けているが、実際に取っていないことは出願した学生の点数が低いからと推測できる。その後も募集していない。山東大学、南開大学、同済大学の場合、2007年に限って1名もしくは2名募集している。この中では、注目に値するのは「985」の蘭州大学である。ほぼ連続してモンゴル人学生を募集している。それは蘭州大学が所在する甘肅省が「八協」に所属し、モンゴル人の人材を養成することが義務づけられているからだ。

中国のモンゴル人は内モンゴル以外に、新疆、遼寧省、吉林省、黒竜江省、青海省、甘肅省、河北省、河南省、雲南省にも分散している³⁰。これらの地域に居住しているモンゴル人学生のモンゴル語教材を編纂す

るために、1976年に吉林省の長春市に「八協」が設立された³¹。その後、さらに「八協」の所属省の高等教育機関はお互いに協力し、高校までモンゴル語で教育を受けたモンゴル人学生の人材育成を担当するようになったのである³²。このような関係から、表7の★が付いた8つの高等教育機関は毎年「蒙授生」を募集している。これらの大学はほぼ少数民族が居住する地域に立地している。その反面、内モンゴルはこれらの地域のモンゴル人学生に対して募集枠を設ける義務がある。例えば、内モンゴル大学2013年の募集枠³³において、モンゴル語で教授する学科（民族クラス）の配分枠は、河北省8人、遼寧省9人、吉林省7人、黒竜江省9人、甘肅省2人、青海省4人、新疆3人となっている。

このように、高校までモンゴル語で教育を受けたモンゴル人学生の自治区外の進学先は主に民族大学と少数民族地区にある「八協」の協力校である。そのうち確実に募集枠を設けている「985」の大学は僅か2校だった。つまり「蒙授生」は進学できる高等教育機関が限られている。また中央民族大学を除けば、ほかの民族大学は人気がないことも窺える。表7から分かるように、2007年の西北民族大学のモンゴル人学生の募集枠は75人に対して26人しか入学せず、翌年は60人の募集枠に7人しか入学していない。

民族大学や「八協」の大学以外、特に沿岸地区の高等教育機関はモンゴル人学生に対して募集枠を設けていない。そのため、北京の大学に行きたければ文系理系を問わず、中央民族大学に行くしかない。上海の大学は上海外国語大学に行くしかない。そして募集人数が少ないことから、多くのモンゴル人学生は内モンゴルの高等教育機関に進学していることが分かる。

続いて、漢語で教育を受けた「漢授生」の進学先を見てみよう。モンゴル語で教育を受けたモンゴル人学生と比べて、人数は多く、全国の高等教育機関に進学している。2010年の内モンゴルの募集要項（本科のみ）では、普通学校の卒業生の場合、文系46,123人、理系96,632人、モンゴル民族学校の卒業生は、文系5,393人、理系6,172人となっている³⁴。「漢授生」の

進学先を表8に整理した。学校の数が多すぎるため、文系の学生が進学する「985」の大学のみにする。

表7と表8の比較から明らかになるのは、「蒙授生」に対して、確実に募集している「985」の大学は2校だったが、「漢授生」に対して、ほぼ毎年24校が募集枠を設けている。このように見れば、内モンゴルの場合、「蒙授生」に対して単独の合格ラインを設け、大学への入学を保証しているが、これらの募集枠はあくまでも、モンゴル語で教授する高等教育機関や民族クラス、民族予科クラスに限られ、「漢授生」の高等教育機関への進学、特に重点大学への進学に影響を及ぼさないように配慮していると推測できる。もちろん、大学側もレベルの高い学生を取りたがっていることは言うまでもない。また、「985」「211」の大学は国際化を目指し、カリキュラムの特徴としてバイリンガル科目（教授言語は英語と中国語）や全英語科目（教授言語は英語）がますます一般的になりつつある³⁵。そのため、今後、重点大学に少数民族学生の募集枠を設けることは一層困難になると考えられる。

このように、モンゴル語で教育を受けたモンゴル人学生の場合、自治区外の進学先はいくつかの高等教育機関に限られている。表8から分かるように、「漢授生」は北京の大学に行きたければ、6つの高等教育機関から選択できる。しかし、「蒙授生」は北京大学、清華大学、中国人民大学に入学する夢さえ持っていないのである。「民族学校の学生は競争心が無い」「普通学校の学生のほうがより頑張っている」とよく民族学校の先生に聞くが、このような高等教育における進路選択が限られていることもモンゴル人学生の学習意欲が低下している一因ではないだろうか。

2.2. 学科から見るモンゴル人学生の進学動向

本節では、「蒙授生」と「漢授生」とともに募集する中央民族大学の学科配分に注目してみる。中央民族大学の2017年の在校生は16,858人で、その内少数民族学生が50%を占めている³⁶。漢人の学生は普通に

表8 「漢授生」の内モンゴル自治区外の進学先及び進学者数（「985」大学、文系）

985 プログラム	2007	2008	2009	2010	所属、所在地
中央民族大学	39(40)	33	36	33	国家民族事務委員会、北京市
北京航空航天大学	5	4	4	4	工業信息化部、北京市
北京理工大学	5(13)	11	9	8	工業信息化部、北京市
中国人民大学	22(24)	22	21	17	教育部、北京市
北京大学	12	11	12	12	教育部、北京市
清華大学	5(7)	3	2	2	教育部、北京市
同济大学	3	10	13	14	教育部、上海市
南開大学	23	26	22	20	教育部、天津市
天津大学	4	4		4	教育部、天津市
南京大学	5	4	7	6	教育部、江蘇省南京市
中山大学	16	14	16	10	教育部、広東省広州市
西北工業大学	1	1	1		工業信息化部、陝西省西安市
西北農林科技大学	16(17)	15	10	10	教育部、陝西省咸陽市
武漢大学	18	14	15	16	教育部、湖北省武漢市
山東大学	8(10)	10	12	12	教育部、山東省済南市
中国海洋大学	21(22)	15	18	12	教育部、山東省青島市
四川大学	20	30	29	21	教育部、四川省成都市
湖南大学	3(8)	12	15	12	教育部、湖南省長沙市
中南大学	12	11	16	18	教育部、湖南省長沙市
吉林大学	20	20	30	30	教育部、吉林省長春市
厦門大学	15(16)	19	19	13	教育部、福建省厦門市
浙江大学	0(2)				教育部、浙江省杭州市
蘭州大学	17	17	23	14	教育部、甘肅省蘭州市
重慶大学		6	13	12	教育部、重慶市
哈尔滨工業大学				2	工業信息化部、黒龍江省ハルビン市
計 25 校	290	312	343	302	

※国家民委は国家民族事務委員会の略称、() の数字は募集枠、実際の進学者数ではない。
 (『内蒙古教育招生考試 2010 年招生計画』により筆者が作成)

50% も在籍している。「漢族学生は 10% を越えない範囲で入学させる」³⁷⁾という募集方針が変化し、その数は半分まで上昇したのである。

2010 年内モンゴルにおける中央民族大学の「漢授生」と「蒙授生」の募集枠を表 9 と表 10 に整理した。

表 9 と表 10 を見れば、「蒙授生」と「漢授生」とともに募集する大学において、学科配分に差異があることが分かる。「漢授生」に関して、文系 18 学科、理系 23 学科が募集を行った。それに対して「蒙授生」の場合、文系理系合わせて「中国少数民族言語文学」のみ募集している。それに本来少数民族のために設立された中央民族大学でさえ、多くの学科はモンゴル語で教育を受けた学生を除外している。この意味では、「蒙

授生」と比べて、漢語で教育を受けたモンゴル人学生の方がある程度恵まれた環境にあると言えよう。

「蒙授生」を募集する「中国少数民族言語文学」とは、各少数民族の言語を中心に学習する学科である。モンゴル言語文学、ウイグル言語文学、朝鮮言語文学、カザフ言語文学などと細かく分かれている。モンゴル人学生を募集しているモンゴル言語文学はモンゴル語で大学入試を受けた「蒙授生」が対象となる。『中央民族学院 1990』によると、この学科は、モンゴル語での教授及び研究ができる人材や翻訳者を育成することが目的である。主な授業は、言語学概論、文学概論、モンゴルの歴史、現代モンゴル語、古代モンゴル語、古代漢語、現代漢語、漢語の作文、翻訳の

表9 2010年中央民族大学における「漢授生」の募集枠及び人数

文系・学科名	募集人数	理系・学科名	募集人数
哲学	1	哲学	1
国際経済と貿易	2	国際経済と貿易	1
財政学	1	財政学	1
金融学	1	金融学	1
宗教学	1	法学	4
法学	4	社会学	2
社会学	2	英語	1
教育学	2	ロシア語	1
漢語言語学	2	マスコミ	2
対外漢語	1	情報とコンピュータ科学	3
中国少数民族言語文学	2	応用物理学	2
英語	1	製薬工程	2
ロシア語	1	化学	2
日本語	1	生物科学	2
マスコミ	2	光情報科学	2
歴史基礎学	4	環境科学	2
民族学	1	統計学	2
工商管理学	2	電子情報工程	3
		通信工程	2
		自動化(オートメーション)	2
		コンピュータ科学と技術	2
		工商管理学	2
		公共管理学	2
計	18 学科	23 学科	45 人

表10 2010年中央民族大学における「蒙授生」の募集枠及び人数

学科名	文系・募集人数	理系・募集人数
中国少数民族言語文学	22	10
計	1 学科	32 人

(表9、表10は『内蒙古教育招生考试 2010年招生计划』により筆者が作成)

理論と実践、モンゴル語の作文などがある。この学科は毎年モンゴル民族学校のモンゴル人学生から文系理系を問わずにあわせて30人位募集している。言語学の学習に興味があるかどうか関係なく、北京の大学、中央民族大学に行きたければ、この学科を選ぶしかない。表9から「中国少数民族言語文学」は「漢授生」も募集していることが分かるが、2010年の募集要項を見ると、朝鮮語で大学入試を受けた人が対象となっている。この学科に限って少数民族の言葉を取得していることがメリットとして扱われている。

漢語で教育を受けた学生に対してどの学科が募集を行っているのだろうか。文系と理系の学生をともに募

集する学科について見てみよう。

中国の場合、高等教育の市場化に伴って、高等教育機関の学科にも変化が現れている。それは、歴史、哲学、教育のような伝統的な分野は削減される方向にある一方、法学、理学、経済学の各分野では大幅な伸びが見られる³⁸。特に経営学や外国語といった応用ないしビジネス志向の分野には学生が殺到したのである³⁹。このような影響を受けて、経済学分野の「国際経済と貿易」「財政学」「金融学」「工商管理学」が多く的高等教育機関に開設されている。そして文系と理系の学生をともに募集している。例えば、2010年の募集要項では、西南民族大学の募集枠にも「国際経済と貿易」

「財政学」「金融学」「法学」が設けられている。それから北京外国語大学にも「法学」「国際経済と貿易」が開設されている。内モンゴル大学の2011年から2013年までの募集枠を見ると、「国際経済と貿易」「金融学」「会計学」には、文系と理系の学生をともに募集している⁴⁰。このように、中国の高等教育機関の学科の推移は市場化や国際化の影響を強く受けている。一方では、市場化による特定専攻に対する過度の注目や過熱により、農村関連の学科や「マルクス主義原理」「中国社会主义建設」の学科に学生を集めることは容易ではないのである⁴¹。

表9からもその学科の推移が分かる。経済学分野のような理系と文系の学生どちらにも人気の学科もあれば、人気に翳りが見える「哲学」では、学生を集めることさえ難しくなり、理系の学生に対しても募集を行っているとは推測できる。中央民族大学のホームページの「哲学」の紹介において、理系と文系の学生をともに募集すると宣伝している⁴²が、2018年の募集枠を見ると、文系の学生のみ募集枠を設けている⁴³。「哲学」のような市場から需要の低い学科は学生の募集に力を注いでいることが窺える。

このように、中国の高等教育における学科の推移は市場化と国際化の影響を強く受け、その結果、高等教育機関側も学生側も市場の需要にマッチングするように必死になっている。「漢授生」は卒業後の経済的見返りを考え、人気の学科や実用的な学科を選択することが可能である。しかしながら「蒙授生」の場合、学科選択が限られており、市場化や国際化の流れを受けて新しく設置された人気の学科と無縁である。中央民族大学の2018年の「蒙授生」の募集枠は「中国少数民族言語文学（蒙古）」18名、「中国少数民族言語文学（蒙漢双語）」18名となっている⁴⁴。募集人数は増えたが、新しく募集する学科に関しては、学習する内容はほぼ同じであり、ただし、多くの授業は漢語で教授するようになった。したがって、「蒙授生」を募集する学科の推移が確認できなかった。

2.3. 内モンゴル大学におけるモンゴル人学生の進学動向と民族予科

前節では、「蒙授生」を募集している自治区外の大学や学科が限定されていることが確認できた。そして、募集する学校のランキングと学科において、「漢授生」と差があることが明らかになった。この意味では、多くのモンゴル人学生は自治区内の大学に進学している。本節では、内モンゴル大学における「蒙授生」の進学動向と民族予科を考察する。

内モンゴル大学⁴⁵は内モンゴル自治区の唯一の「211」国家重点大学である。博士後期課程、博士前期課程、本科、専科、職業技術教育などが行われている。その上、民族予科教育、留学生教育、成人教育も行なっている。教職員は2,844人、そのうち講師は1,697人、博士指導教員128人、教授267人、準教授470人、博士号を持つ教員は30.1%を占めている。24の学部と内モンゴル創業学院という独立学院から構成し、78の本科の学科を持っている総合大学である。現在の各種類の在籍生を合わせると約2万人に達している。そのうち、モンゴル人及びほかの少数民族（朝鮮族、オロチョン、ダグール、エベンキ、ロシア）の学生は30%を占めている。「内モンゴルにおける募集要項2010」によると、内モンゴル大学における「蒙授生」の進学者数は2007年に448人、2008年に469人、2009年では453人となっている。

内モンゴルにおいて、モンゴル語で教育を受けた学生に対して単独の合格ラインを設けているため、モンゴル語で教授する民族クラス（原語：蒙授班）と民族予科クラスがある。2013年の募集要項から見ると文系の場合、モンゴル語言語文学、モンゴル語言語文学（文理総合班）、モンゴル語言語文学（キリル文字）、マスコミ、編集出版学、民族学、法学、日本語、歴史学、旅行管理、社会工作、民族予科合わせて12の学科において、「蒙授生」を募集している。理系の場合は、表12から分かるように、モンゴル語言語文学（文理総合班）と民族予科しか募集を行っていない。「漢授生」の場合、文系は24の学科、理系は表11のよう

表 11 2013 年内モンゴル大学における「漢授生」の理系の募集枠及び人数

学科名	募集人数	学科名	募集人数
材料化学	24	生物学基地	19
財務管理	12	生物学基地 (生態学)	6
電子科学と技術	37	食品科学と工程	18
電子商務	12	食品と安全	18
電子情報科学と技術	13	市場経営	10
管理科学	10	数理学基地 (数学)	18
国際経済と貿易	12	数理学基地 (物理)	19
化学工程	36	数学と応用数学	30
化学基礎	31	通信工程	24
環境工程	31	統計学	31
環境科学	21	土木工程	52
会計学	9	ネットワーク工程	12
機械工程及び自動化	24	情報管理と情報システム	17
コンピュータ科学と技術	24	情報と計算科学	32
交通運輸	24	応用化学	29
金融学	28	応用物理学	33
経済学	9	園芸	18
自動車サービス工程	27	自動化	35
人力資源管理	11	生物技術	15
ソフトウェア工程	60	生物技術基地	24
生態学	12	生物科学	14
生物工程	18		
計 43 学科		募集人数 971 人	

表 12 2013 年内モンゴル大学における「蒙授生」の理系の募集枠及び人数

学科名	募集人数	学科名	募集人数
モンゴル言語文学 (文理総合班)	9	民族予科	169
計 2 学科		募集人数 178 人	

(表 11、表 12 は『内モンゴル大学募集要項 2013』により筆者が作成)

に、43 の学科が募集枠を設けている。内モンゴルにおけるほとんどの高等教育機関は「蒙授生」と「漢授生」を募集しているが、「蒙授生」を募集する学科に大きな偏りがあることが確認できた。表 11 と表 12 を比較すれば分かるように、特に理系においてその差異は大きい。このように、「蒙授生」を募集する「区内大学」「区外大学」を問わず、学問分野別に見ると「文系」が圧倒的に多くなっている。

「蒙授生」を募集する「モンゴル言語文学 (文理総合班)」⁴⁶とは文系と理系のモンゴル人学生をともに募集している。文系理系に跨る複合的な人材を育成することを目指し、主にモンゴル語、コンピュータの知識、モンゴル語のコーパスを学習すると書いてある。

『内モンゴル大学募集要項 2013』によると、この学科の 2011 年の合格ラインは文系 369 点、理系 340 点と、民族クラスの中でも一番低かった。モンゴル民族学校の学生に人気が無いことが分かる。

民族予科クラス⁴⁷は高校までモンゴル語で教育を受けた「蒙授生」を対象に募集する。一年間漢語、英語や基礎知識を学習した後、各漢語教授の学科に入学する。2013 年には 224 人が在籍していた。この大学に入学する半分の「蒙授生」は民族予科で学習していることになる。文系民族予科クラスと理系民族予科クラスがある。『内モンゴル大学募集要項 2013』によると、民族予科は少数民族の高度な人材を育成することと中等教育までモンゴル語で教育を受けた学生たちの進路

表 13

		2008	2009	2010	2011	2012
民族クラス	文系	400 点	392 点	393 点	340 点	393 点
民族予科クラス	文系	470 点	455 点	420 点	440 点	447 点
民族クラス	理系	430 点	445 点	430 点	369 点	389 点
民族予科クラス	理系	500 点	462 点	460 点	423 点	413 点

(内蒙古大学招生網 <http://zhaosheng.imu.edu.cn/> により作成、2013 年 12 月 10 日に取得)

を拡大することを目的に 1980 年に設置された。「蒙授生」の文系理系を問わず、民族予科に入学できたら、翌年漢語で教える多くの学科を選択できるようになる。そのため、民族予科はモンゴル民族学校の卒業生や保護者にも高く評価され、人気がある。近年では民族予科の合格ラインはほかの民族クラスの合格ラインを上回っている。また、内モンゴルのほかの高等教育機関にもほとんど民族予科を設置している。

2008 年から 2012 年にかけて、内モンゴル大学における「蒙授生」の「民族クラス」と「民族予科クラス」の合格ラインを比較し、表 13 にまとめた。ここから見れば、民族予科の合格ラインは高く、「蒙授生」に人気があることを窺える。

2007 年、内モンゴル自治区政府は「民族教育をさらに強化することに関する意見」⁴⁸を出した。この意見において「民族予科 1 年間の漢語、外国語、専門に関する学習を終えた後、学生たちが最新の学科及び実用的な・技能的な学科（下線は引用者）を学習するように指導する」（筆者訳）と規定している。下線を引いたところから分かることは、民族予科に入学したら、最新の学科、実用的な学科で学習できるようになることである。つまり、民族クラスでは募集していない学科のことを指している。それでは、これらは具体的にどのような学科なのか、2013 年の募集要項を見ると、「国際経済と貿易」「会計学」「経済学」「金融学」などがあり、理系と文系の「漢授生」とともに募集している。これらの学科は「自治区のブランド学科」とされ、就職率も高い。市場化や国際化に伴って、新しく開設された学科であるが、民族学校の卒業生を募集してい

ない。しかし民族予科に入学できたら翌年から入学できるチャンスがある。学校関係者の話によると、民族予科は競争原理のもとで学生の積極性を引き出すようにしているという。

民族予科⁴⁹は厳しい管理のもとで運営されている。授業スケジュールを見ると、月曜日から金曜日まで授業があり、夜は 19:30 から 2 時間の自習がある。授業に理由なく欠席したり早退したりすると点数が引かれる。民族予科では、1 年間の総合成績の順に平等に学科配分を行う。前期の成績は 40%、後期の成績は 60%を占める。各学科の募集計画は教務課により行われている。毎年募集する学科は変わる。後期になると、民族予科の学生を募集する学部の方から説明会を開くのである。また一つの学科は 2 人ぐらいしか募集しないため、予科 1 年間で必死に学習しないと希望通りの学科に行けないケースも少なくない。このように、モンゴル語で教育を受けた学生の進路を拡大できるように民族予科は工夫していることが分かる。しかしながら課題も少なくない。これに関して、また、稿を改めて検討したい。

4. 考察

内モンゴルにおける高等教育機関の募集枠及び学科に焦点を置き、モンゴル語で教育を受けた学生の高等教育の課題を考察した結果、以下のような課題が明らかになった。

第 1 に、内モンゴル自治区外の高等教育機関の募集枠において、モンゴル語で教育を受けた「蒙授生」の

進学先が限られており、その進学者数も少ないことが確認できた。2008 年、「区外大学」の第 1 類教育機関は「蒙授生」に対して文系 9 校が募集し、理系は 14 校が募集した。「漢授生」の場合、文系 139 校、理系は 194 校が募集した。第 2 類の高等教育機関は「蒙授生」に対して文系 15 校、理系 18 校しか募集していないが「漢授生」に対して文系 273 校、理系 340 校が募集した。2009 年、2010 年も同じ傾向にある。第 3 類の高等教育機関の場合、「区内大学」も「区外大学」もほとんどモンゴル人学生を募集していないことが分かる。

第 2 に、「蒙授生」は主に民族大学や少数民族地区の高等教育機関に進学していることが分かった。特に沿岸部の発展した地区の高等教育機関に進学するチャンスがないのである。「985 プロジェクト」の高等教育機関で「蒙授生」を確実に募集しているのはわずか 2 校であり、中央民族大学と蘭州大学である。中央民族大学はその名通りに少数民族の人材を育成することが義務である。蘭州大学は甘肅省に所在し、甘肅省にもモンゴル人が居住し、内モンゴルと甘肅はお互いにモンゴル人の人材を育成することが「八協」により定められているため、募集枠が設けられている。これに対して、「漢授生」の場合、「985 プロジェクト」の 24 校が募集している。「蒙授生」は北京の大学に行きたければ、中央民族大学に進学するしかないが、「漢授生」は、中央民族大学、北京航空航天大学、北京理工大学、中国人民大学、北京大学、清華大学に進学できる。ほかにも上海、天津のような沿海地区の高等教育機関に進学できる。このように見れば、内モンゴルの場合、「蒙授生」に対して単独の合格ラインを設け、大学への入学を保証しているが、これらの募集枠はあくまでも、モンゴル語で教授する高等教育機関や民族クラス、民族予科クラスに限られ、「漢授生」の高等教育機関への進学、特に重点大学への進学に影響を及ぼさないように配慮していると推測できる。もちろん、大学側もレベルの高い学生を取りたがっていることは言うまでもない。また、「985 プロジェクト」や「211 プロジェクト」大学の国際化に伴い、多くの科目において英語

で教授することを目指している。そのため、今後、重点大学に少数民族学生の募集枠を設けることは一層困難になると考えられる。

第 3 に、「蒙授生」の高等教育機関の募集枠を専門分野別に見ると、「区内大学」「区外大学」を問わず、圧倒的に「文系」が多くなっている。そして「文系」の中でも自民族の言葉や歴史に関する学科の方が「蒙授生」を募集しているため、学科の募集枠は大きな偏りがある。

中央民族大学の場合、「漢授生」に対して、文系 18 学科、理系 23 学科が募集を行ったが、モンゴル人学生に対しては、文系理系合わせて「中国少数民族言語文学」のみ募集している。本来少数民族のために設立された中央民族大学でさえ、多くの学科において「蒙授生」を除外している。中国少数民族言語文学は大学入試においてモンゴル語で受験した人が対象となり、主な授業には、言語学概論、文学概論、モンゴルの歴史、現代モンゴル語、古代モンゴル語、古代漢語、現代漢語、漢語の作文、翻訳の理論と実践、モンゴル語の作文などがある。言語学の学習に興味があるかどうか関係なく、北京の大学に進学したければ、中央民族大学のこの学科に入学するしかない。

これに対して、「漢授生」の場合、中国の市場化や国際化の流れを受けて新しく開設された「国際経済と貿易」「財政学」「金融学」「法学」のような人気の学科に進学できる。各高等教育機関は多くの学生を獲得するため、これらの学科を開設している。しかしながらモンゴル語で教育を受けた学生にはこのような新しく設置された人気の学科や「理系」と無縁である。

第 4 に、民族予科はモンゴル人学生の進路選択を拡大し、多様な人材の養成に貢献している。しかし、民族予科は競争原理のもとで、1 年間の総合成績の順に翌年に各学科に配分されるが、各学科の募集人数が少ないため、努力しないと希望通りの学科に入学できないケースも少なくない。

したがって、モンゴル語で教育を受けたモンゴル人学生の高等教育の課題を解決するには、高等教育機関における進路選択を拡大し、「文系」と「理系」の募

集枠を合理的に設置すべきである。つまり、モンゴル人の高等教育機関における入学もよりも、実際にモンゴル語で教育を受けたモンゴル人学生はどの高等教育機関に進学し、何の学習をしているかという、高等教育の質に重点を置くべきだと考える。

多くの学科において「蒙授生」が学習できるような環境を整える必要がある。実際、内モンゴル大学でも、モンゴル語やモンゴル歴史関係の学科以外は民族クラスでも漢語で教授している場合が多い。モンゴル人学生は初等中等教育を経て、漢語のレベルもそれなりに身に付けてきたといえる。また、内モンゴル大学は2013年から、「蒙授生」を直接漢語教授の学科に進学させるプログラム（原語：蒙生漢授計画）を実施している。関係者の話によると、「蒙授生」の漢語能力も高くなっているため、漢語教授の学科に入学しても付いていけるという。

また、中国における優遇政策において、戸籍上に「少数民族」と記されてあれば優遇される。そのため自分の民族を「少数民族」に変え、簡単に加点措置を悪用する者もいる。近年では、少数民族の優遇政策は主要民族である漢人に対して逆差別であるという指摘も少なくない。大学入試における優遇措置は自民族の言葉を学習し、要するに漢人学生より一つの科目を多く学習しているから、その分配慮している。しかし、普通学校に入学したモンゴル人学生はモンゴル語を学習せず、大学入試でもモンゴル語の試験を受けないのに10点プラスされることは、同じ教室で学習している漢人学生にとって不公平であることは間違いない。普通学校に入学したモンゴル人学生にもモンゴル語の試験を課すべきだと思われる。そして、優遇政策は本当に自民族の文化・言葉を学習している少数民族に配慮

して行われるべきである。

おわりに

以上、内モンゴルにおける高等教育機関の募集枠及び学科に注目し、モンゴル人学生の高等教育の課題の一端を明らかにした。中国の高等教育の大衆化や優遇政策の実施により高等教育機会が拡大され、少数民族の進学を保証したが、モンゴル語で教育を受けたモンゴル人学生は限られた民族大学や少数民族地区の高等教育機関にしか進学できない。少数民族のために設置された中央民族大学でさえ、多くの学科において、モンゴル人学生を募集していない。さらに、自治区内と自治区外の高等教育機関において、「理系」よりも「文系」、そして「文系」の中でも自民族の言葉や歴史に関する学科がモンゴル人学生を募集しているため、学科の募集枠は大きな偏りがある。現在の中国では市場化や国際化に適応できる多様な人材の養成が求められているにも関わらず単一の人材を育成している。また、大学の国際化により、英語能力が重視され、民族学校の少数民族学生が重点大学や学科で学習することは一層困難になると考えられる。モンゴル語で教育を受けた学生の進路選択を拡大することはモンゴル民族教育の発展にもつながる。したがって、モンゴル人の高等教育の課題は量から質へと転換すべきだと考える。

本稿では、モンゴル語で教育を受けたモンゴル人学生の高等教育の本科のみ扱うにとどまった。モンゴル人の専科教育及び民族予科教育も視野に入れてすすめるべきではない。別の機会にあらためて検討する。

注

- 1 中華人民共和国年鑑編輯部（2011：659）
- 2 杉村（2008：102）
- 3 白音門徳（2013：29）
- 4 文化大革命により、多くのモンゴル民族の知識人や指導者が殺害されたことの反動として、無気力、無関心、無感動の「三無主義」がモンゴルの若者に広がったとされている。

- 5 漢族は学習の目的として「国家に貢献したい」を挙げているのに対して、モンゴル民族の学生は「父母に楽をさせたい」「いい仕事について、円満で楽しい家庭を築きたい」というマイホーム志向的であると
- 6 新保 (2012 : 51)
- 7 高, 友哈 (2010 : 218)
- 8 1970 年代の定住放牧政策のもとで、モンゴル族の定住、都市への移動を受け、民族学校の集中・統合が行われた、特に 2000 年から「ソム」(行政単位)の学校が廃校され、「旗」(行政単位)に学校を統合した。その数は、小学校は 3 分の 1 と減少され、中学校は 3 分の 2 へと減少されたとされている。
- 9 小川 (2001 : 59)
- 10 小野 (2017 : 31)。
- 11 小川 (2001 : 55)
- 12 小川 (2001 : 60)
- 13 中国教育年鑑編輯部編 (1984 : 411)
- 14 国家民委教育科技司 (2008 : 212)
- 15 中華人民共和国年鑑編輯部 (2011 : 669、853)
- 16 「中華人民共和国教育部」
(http://www.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe_229/201205/xxgk_1337.html)
2013 年 11 月 10 日取得。
- 17 「中華人民共和国教育部」
(http://www.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe_1736/201004/85663.html)2013 年 11 月 10 日取得。
- 18 小野寺香 (2017 : 22)
- 19 内蒙古自治区教育厅民族教育处 (2011 : 259-260)
- 20 文系総合と理系総合とは大学入試の一科目をいう。文系総合は歴史、地理、政治の三つの科目を含み、文系の学生が受験する。理系総合は化学、物理、生物の内容を含み、理系の学生が受験する。
- 21 ムンクバト (2013 : 128)
- 22 李敏 (2011 : 28-29)
- 23 国家民委教育科技司 (2008 : 215)
- 24 小川 (2017 : 7)
- 25 小川 (2017 : 64)
- 26 「中華人民共和国教育部」
(http://www.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe_1360/200702/16300.html)2013 年 11 月 15 日取得。
- 27 大塚 (2007 : 207)
- 28 「中華人民共和国教育部」
(http://www.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe_271/201010/109693.html)2013 年 11 月 15 日取得)。
- 29 李敏 (2011 : 26 - 27)
- 30 内蒙古自治区教育厅民族教育处 (2011 : 351)
- 31 国家民族事務委員会教育司 (1991 : 231)
- 32 内蒙古自治区教育厅 (2005 : 1100)
- 33 内蒙古辦公室 (2013 : 31)
- 34 内蒙古教育招生考试中心 (2010 : 1)
- 35 独立行政法人 科学技術振興機構 中国総合研究交流センター『中国の大学国際化の発展と変革』(2014 : 115)
- 36 中央民族大学ホームページより 2018 年 8 月 22 日取得
<http://www.muc.edu.cn/survey/introduction.html>
- 37 小川 (2001 : 71)
- 38 大塚 (2007 : 212)
- 39 李敏 (2011 : 42)
- 40 内蒙古大学招生辦公室 (2013 : 28-32)
- 41 大塚 (2007 : 218-224)
- 42 中央民族大学ホームページより 2018 年 10 月 15 日取得

<http://zb.muc.edu.cn/content/zb/kyk/d9c5ec7-23d7-11e7-a0bc-6c92bf4353bb.htm>

- 43 内蒙古自治区教育招生考试中心 (2018: 12、212)
- 44 内蒙古自治区教育招生考试中心 (2018: 519、531)
- 45 内蒙古大学招生办公室 (2013: 1)
- 46 内蒙古办公室 (2013: 1)
- 47 内蒙古办公室 (2013: 26)
- 48 内蒙古自治区教育厅民族教育处 (2011: 146)
- 49 内モンゴル大学の「民族予科クラス理系と文系の人材養成方案と授業計画」(2012年)による。

参考文献

日本語:

- ソロンガ (2006): ソロンガ「中国内モンゴル自治区における民族教育の現状—都市部のモンゴル家族の生活実態を中心に—」『愛知県立大学大学院国際文化研究科論集』第7号、205-234頁。
- ハスゲレル (2005): ハスゲレル「中国におけるモンゴル民族教育の構造と課題—教科書分析を中心に—」『国際教育』第11号、43-62頁。
- ハスゲレル (2016): ハスゲレル『中国モンゴル民族教育の変容—バイリンガル教育と英語教育の導入をめぐる—』株式会社現代図書。
- ムンクバト N.B. (2012): ムンクバト N.B.「内モンゴル自治区における牧地域の民族教育の現状—民族学生の学校選択に関する一考察—」『千葉大学 ユーラシア言語文化論集』14、105-116頁。
- ムンクバト N.B. (2013): ムンクバト N.B.「内モンゴル自治区におけるモンゴル民族の学校教育の現状について—甲・乙式学級の「モンゴル語」教科書の比較から—」『千葉大学 ユーラシア言語文化論集 15』121-130頁。
- ムンクバト N.B. (2014): ボルジギン・N・ムンクバト「内モンゴル自治区における民族学校の言語教育について—モンゴル人学校、漢族学校、日本の小学校と在日朝鮮人学校のカリキュラム比較からの一考察—」『千葉大学ユーラシア言語文化論集 16』261-266頁。
- ムンクバト N.B. (2015): ボルジギン・ムンクバト「内モンゴルにおける言語使用の実態: モンゴル人学生の言語使用に関するアンケート調査から」『千葉大学人文社会科学研究 31』144-153頁。
- 岡本 (1999): 岡本雅享『中国の少数民族と言語政策』社会評論社。
- 高、友哈 (2008): 高、友哈「内モンゴル自治区におけるトライリンガル教育—少数民族学生の母語能力への影響を中心に—」『PROCEEDINGS 03』65-75頁。
- 高、友哈 (2010): 高、友哈「内モンゴル自治区における英語必修化に伴うトライリンガル教育の現状と課題」『人間文化創成科学論叢』第13巻、217-224頁。
- 高、友哈 (2011): 高、友哈「民族学校の義務教育段階における英語教育政策に関する一考察—導入時期と教授言語を中心に—」『PROCEEDINGS 16』151-157頁。
- 小川 (2001): 小川佳万『社会主義中国における少数民族教育—「民族平等」理念の展開—』東信堂。
- 小川 (2017): 小川佳万『アジアの大学入試における格差是正措置』広島高等教育研究開発センター。
- 小野 (2017): 小野寺香「中国の大学入試における格差是正措置」『アジアの大学入試における格差是正措置』広島高等教育研究開発センター、25-38頁。
- 新保 (2012): 新保教子「改革開放政策下での中国エスニック・マイノリティと中等教育—モンゴル族に焦点を当てて—」『学術研究 (人文科学・社会科学編)』第60号、49-60頁。
- 杉村 (2008): 杉村美記「国際化をめぐる中国の教育格差」『沸騰する中国の教育改革』東方書店、102頁。
- 大塚 (2007): 大塚豊『中国大学入試研究—変貌する国家の人材選抜—』東信堂。
- ハス額兒敦 (2005): ハス額兒敦「中国少数民族地域の民族教育政策と民族教育の問題—内モンゴル自治区の民族教育を中心に—」『多元文化』(5)、265-280頁。
- 白音門徳 (2013): 「中国内モンゴル自治区における少数民族の言語政策とモンゴル語の保護と継承の実態」『現代中国における言語政策と言語継承 第一巻』三元社、26-31頁。

李敏（2011）：李敏『中国高等教育の拡大と大卒者就職難問題—背景の社会学的検討—』広島大学出版社。

中国語：

国家民族事務委員会教育司（1991）：国家民族事務委員会教育司「新時期民族教育工作手冊」中央民族大学出版社。

国家民委教育科技司（2008）国家民委教育科技司『中国民族教育文件匯編 上冊』。

教育大辭典編纂委員會（1992）：教育大辭典編纂委員會編『教育大辭典』第4卷、上海教育出版社。

教育部民族教育司（2004）：教育部民族教育司『民族教育文件匯編』紅旗出版社。

内蒙古辦公室（2013）：『内蒙古大学 2013 年招生簡章』。

中国教育年鑑編部編（1984）：『中国教育年鑑 1949-1981』中国百科全書出版社、409 頁。

内蒙古自治区教育厅（2005）：内蒙古自治区教育厅『内蒙古教育大觀 下冊』内蒙古大学出版社。

内蒙古自治区教育厅民族教育处（2011）：内蒙古自治区教育厅民族教育处『内蒙古民族教育工作手冊』第一辑、内蒙古教育出版社。

内蒙古自治区教育招生考试中心（2010）：内蒙古自治区教育招生考试中心『内蒙古自治区普通高校招生計画 2010 年』

内蒙古自治区教育招生考试中心（2018）：内蒙古自治区教育招生考试中心『内蒙古自治区普通高校招生計画 2018 年』

中華人民共和國年鑑編輯部（2011）：中華人民共和國年鑑編輯部『中華人民共和國年鑑 2011』中華人民共和國年鑑社、659 頁。

中央民族学院 招生簡章（1990）：『中央民族学院 招生簡章 1990』。